

平成26年度教育事業「第35期はなやまボランティアスクール」

1 趣旨

ボランティア活動に必要な理論と技術についての実践的な研修を行うとともに、体験活動の指導者や支援者としての技術とボランティア活動に積極的に取り組む意欲を高める。

2 目標

- 青少年教育施設におけるボランティアの役割とボランティア活動について理解する。
- 自然体験活動の指導方法や救命救急法と安全管理などボランティアとしてすぐに生かせる知識や技術を習得する。
- 参加者や先輩ボランティアとのふれあいを通して、ボランティアとしての意欲を高め、研修終了後ボランティアとして活動する。

3 主催

独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立花山青少年自然の家

4 期日

平成26年4月26日（土）～4月27日（日）【1泊2日】

5 場所

国立花山青少年自然の家 及び 施設周辺フィールド

6 参加対象と人数

高校生以上のボランティア活動を志す方（一般成人・学生・高校生） 30名

7 参加状況

	宮城県		岩手県		秋田県		山形県		福島県		東京都		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
高校生	4	11	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	16
大学生	9	12	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	24
一般	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	5
合計	15	24	1	0	1	0	1	0	0	1	2	0	45

【参加者の主な所属先】

- ・宮城県塩釜高等学校
- ・聖ウルスラ学院英知高等学校
- ・東京都立王子総合高等学校
- ・東北学院大学
- ・福島大学
- ・宮城県古川高等学校
- ・東北生活文化大学高等学校
- ・宮城学院女子大学
- ・山形大学
- ・岩手県立大学宮古短期大学部
- ・仙台市立仙台高等学校

8 日程

	4月26日(土)	4月27日(日)
午前	受付 9:30 開講式 10:30 <講義Ⅰ> 10:30~12:00 「青少年教育の理解」 [講師] 文教大学人間科学部人間科学科 専任講師 青山 鉄兵 氏 ボランティア登録について 12:00~12:20 ・ボランティア登録の説明 ・登録用紙、調査票の記入の仕方	朝のつどい 7:15~ 7:30 [実習Ⅱ] 9:00~12:00 「救命救急法」 [講師] 栗原消防署西出張所 主査 消防司令補 米澤 尚哉 消防副士長 石川 雄大 消防士 佐藤 和裕 消防士 菅原 拳 消防士 三浦 誠矢 栗原市消防本部警防課警防係 消防副士長 佐藤 彩
午後	<講義Ⅲ> 13:20~14:50 「ボランティア活動の意義」 <講義Ⅳ> 15:00~16:30 「青少年教育施設における ボランティア活動の理解」 [講師] 文教大学人間科学部人間科学科 専任講師 青山 鉄兵 氏	<講義Ⅳ> 13:00~14:30 「青少年教育施設の現状と運営」 [講師] 国立花山青少年自然の家 次長 熊木 邦夫 ボランティアが関わる事業説明と登録用紙、 アンケートの記入・回収 14:30~15:00 修了証授与・閉講式 15:10~15:50
夜	[実習Ⅱ] 17:00~21:00 H A Bプログラム体験 「野外炊事の基本」 (安全に配慮した野外炊事) [実習指導] 国立花山青少年自然の家 職員	

9 実施状況

(1) 企画のポイント

- ・教育事業等の参加者への支援を主な目的としたボランティア育成を図るため、高等学校や大学等へ参加を積極的に呼びかけた。特に大学生の参加者を増やすため、大学へ訪問し、ボランティア担当者や直接学生に対して事業の内容を伝えた。
- ・大学生が社会教育実習や講義の一環として当所の事業に参加できるように大学等と連携していくことを昨年度に継続して進めた。
- ・当所の教育事業等に参加する子どもたちへの支援を中心に、ボランティアとして

活動するために必要な知識や技能を習得するプログラムの内容を構成した。

- ・登録ボランティアとの連携強化を図るため、メーリングリストを活用しボランティア募集や定期的な連絡を伝えるようにした。

(2) 運営のポイント

- ・文教大学より青山鉄兵氏を講師に招き、3つの講義を行った。講義では、自身がこれまで行ったキャンプやボランティア活動の経験を基に3つの講義に関連性をもって進めた。また、救命救急法では栗原市消防本部警防課に講師を依頼し、野外活動時における緊急時に備えてAED（自動体外式除細動器）の使い方や心肺蘇生法などの実技を行った。
- ・例年2泊3日でプログラムを進めていたが、本年度は1泊2日の日程で行った。参加者にプログラム内容を詰め込みすぎないように計画した。
- ・食事や入浴、睡眠など十分な時間を確保し参加者がゆとりをもって過ごすことができるように配慮した。
- ・退所点検では、指導者の視点で宿泊室の片づけができるように、職員の説明を加えながら行った。

(3) 安全管理のポイント

- ・朝のつどいや食事などの時間を利用して、スタッフによる体調チェックを行うなど、参加者の体調管理に努めた。

(4) 実施状況

【1日目】

◇ <開講式>



宮田所長からの主催者代表あいさつ



講師の青山鉄兵先生の紹介

◇ <講義 I> 「青少年教育の理解」



自己紹介を兼ねてアイスブレイク



この講座に参加した理由等お互いに話し合いを進める

◇ <講義Ⅲ> 「青少年教育施設におけるボランティア活動の理解」



自身の経験に基づいた講義



講師の話に集中している受講生

◇ [実習Ⅰ] H A B体験プログラム「安全に配慮した野外炊事」



安全について確認し、活動に取り組む



手順や分担について相談後、班毎に活動へ

【2日目】

◇ 朝のつどい



7:15 からの朝のつどいに全員で参加



司会と旗の掲揚係を自分たちで分担

◇ [実習Ⅱ] 救命救急法



心肺蘇生法、AEDについて指導を受ける



参加者による心肺蘇生訓練の実際

◇<講義 I > 「青少年教育施設の現状と運営」



熊木次長による講義の様子



施設利用の現状について講義を受ける

◇修了証授与・閉講式



熊木次長から参加者代表へ修了証の授与



参加者には事業等での活躍が期待される

10 成果と課題

(1) アンケートの結果

①参加者の満足度（アンケート回収率 100.0%）

単位：%

設 問 事 項	満 足	やや満足	やや不満	不 満
事業全体をとおしてはどうでしたか。	95.6	4.4	0.0	0.0
事業のプログラムはどうでしたか。	91.1	6.7	2.2	0.0
事業の運営はどうでしたか。	86.7	11.1	0.0	0.0
職員の指導・助言はどうでしたか。	93.3	4.4	0.0	0.0

参加者45名に対して事業後に行ったアンケート調査の集計結果は、表のとおりであった。

4つの項目全てにおいて、「満足」が高い割合を占め、「不満」の項目の回答は皆無であった。やや不満の回答については、天候に恵まれたこともあり、講義だけでなく施設周辺のフィールドを活かした自然体験を行いたいという要望やキャンプファイヤーなどのプログラム体験を行いたいという要望であった。1泊2日のプログラム内容としては、限られた内容になるが、参加者の満足度の結果からこの事業は概ね好評であったと考える。

②自由記述

<プログラム全般について>

- とても満足しています。すごく楽しい2日間でした。
- 様々なプログラムが用意されていて何より人と人とのコミュニケーションを通して学べる素晴らしい環境だと感じました。
- 自分のためになることばかりでよかった。
- より自分たちの考えを深められるプログラムでした。
- 学生中心のプログラムとしては、分かりやすく工夫されていて楽しめる内容だと思います。
- 実際に体験できるのでとてもよかったです。
- 時間割にゆとりがあって詰めこまれた感がないのはいいと思う。
- 去年と比べて大人数で何かと大変だったかと思いますがスムーズだったと思います。
- 一からつくる人間関係というのがとてもよかった。
- とてもスムーズで分かりやすかったです。
- 自分が求めている社会教育について貴重な体験ができてよかった。
- 引率のつもりが教員も参加申込でエントリーしたため、初日から生徒と一緒にあったの2日間でした。人と人のかかわり方やきっかけ、動機づくりの幅、発想、とても勉強になりました。また大学生や高校生と同じ視点、目標でともに取り組むことで貴重な経験を得ることができましたので、ボランティアに留まらず教育現場で活かしていこうと思います。ありがとうございました。
- 学んだことをこれからのボランティア活動や生活にいかしていきたい。

<講義や実習について>

- ボランティアとしての意識や考え方を変えることができた。
- 外部講師の先生や所の先生方、様々な視点と知識、情報を学びながら共有できるところがよかったです。
- 青山先生の講義は十分にいろいろ考えさせてくれました。
- 教員の仕事をしているので重なる面もありましたが、自発性のきっかけを引き出し学ばせていただきました。
- 今回はボランティアスクールに参加しましたが、自発性の考え方の幅を考えさせられる企画で生徒たちにとってもよい経験になったと思います。
- 適切な助言や指導で、大変分かりやすかったです。
- より簡単に、そして的確でした。
- 企画と指導のあり方が考えさせられ道徳教育的な観点も強く感じ、子どもたちに考えさえるよい指導だと思います。
- ボランティアの入り口が見えたように思えます。
- 人の縁を大切にしていこうと思いました。ありがとうございました。また参加したいと思います。

(2) 成果

- 前年度の2月から準備を進め、参加者の募集期間を3月～4月中旬とした。その期間に大学訪問等の広報を行ったところその効果があった。
- 募集人数を昨年度設定した20名から30名に変更し、参加者を募った。高校生を含め幅広い参加者を集めるとともに定員を超える参加者を集めることができた。
- 例年2泊3日で実施していたが、今年度は1泊2日で実施した。講義の時間が続く形であったが、参加者の満足度は高かった。
- スタッフの体制や活動プログラムの内容は、1泊2日のプログラムとして適正だったと考える。
- 昨年度の反省としてタイムスケジュールや参加者へのインフォメーションの不足があった。ホワイトボードの活用やインフォメーションを増やすなどの改善を図ったところ参加者の混乱を招くことなくスムーズな運営ができた。

(3) 課題

- 当日のバス乗車計画について、綿密に計画する必要があった。計画をダイヤ改正前の時刻で組んでいたため、受付時刻等に無理が生じた。
- 当所でボランティア養成を始めて35年続いていることを考え、閑散期にボランティアの同窓会を開催し、情報交換の機会を設けることやボランティア養成の機会としてボランティア自身が活動を企画する枠を設けることを検討し、自主的・積極的なボランティアの参画を促進していく。
- 前年度までは、施設のフィールドを使ったオリエンテーリングやキャンプファイヤーなどを取り入れていた。参加者の要望からもそうした体験を取り入れることも検討したい。

